

三宅島の火山活動（2014 年 10 月～2015 年 1 月）*

Volcanic Activity of Miyakejima Volcano (October 2014 - January 2015)

気象庁地震火山部火山課

火山監視・情報センター

Volcanology Division, Japan Meteorological Agency

Volcanic Observation and Information Center

概況

・噴煙活動（第 1 図- 、第 2 図、第 4 図、第 2 表）

2014 年 11 月 19 日、12 月 10 日、及び 2015 年 1 月 13 日に実施した現地調査では、山頂火口南側内壁に位置する主火孔及びその周辺で引き続き高温領域が認められ、これまでと比べて火口内の地形および高温領域の分布に特段の変化は認められなかった。

山頂火口からの噴煙活動は、火口縁上概ね 100～500m で推移した。

噴火は 2013 年 1 月 22 日を最後に発生していない。

・火山ガス放出の状況（第 1 図- 、第 1 表、第 5 図、第 6 図）

山頂火口からの二酸化硫黄放出量は、2013 年以降 1 日当たり概ね 1 千トンを下回っており、2014 年以降は 500 トンを下回っている。今期間実施した現地調査では 1 日当たり 300～400 トンと、やや少量の火山ガス放出量が観測された。

三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

・地震活動（第 1 図- 、第 7 図、第 8 図）

山頂浅部を震源とする地震は、概ね少ない状態で経過した。

火山性微動は、2014 年 1 月 21 日以降、観測されていない。

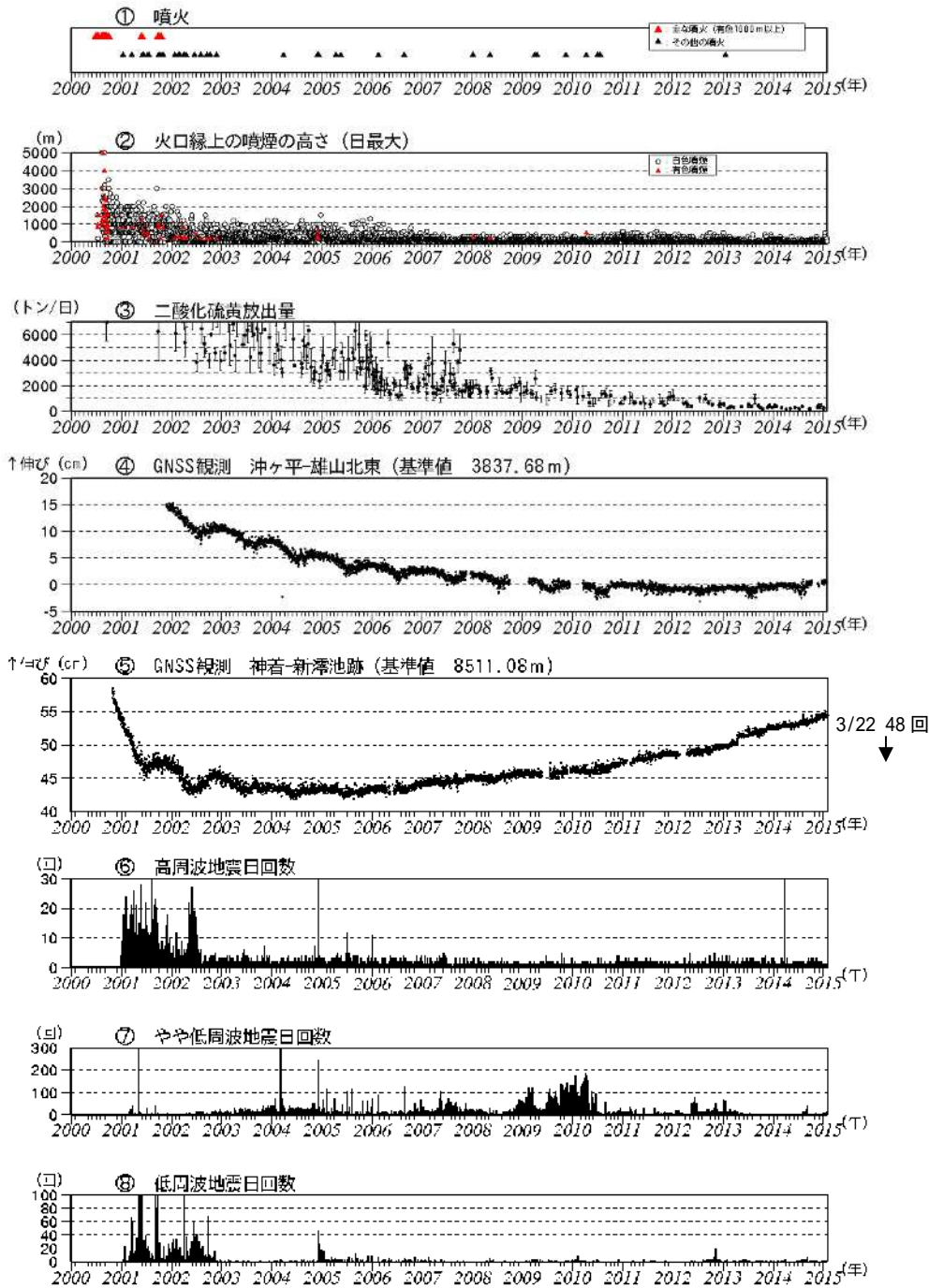
・地殻変動（第 1 図- 、第 9～12 図）

GNSS による観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013 年頃から停滞している。一方、島内の長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

傾斜観測では、火山活動によるとみられる地殻変動は認められなかった。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、独立行政法人産業技術総合研究所、独立行政法人防災科学技術研究所及び東京都のデータを利用して作成した。

* 2015 年 4 月 21 日受付



第 1 図 三宅島 火山活動経過図 (2000 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日)

Fig.1 Volcanic activities of Miyakejima from January 2000 to January 2015.

注 1) は、気象庁火山課、三宅島火山防災連絡事務所、産業技術総合研究所地質調査総合センター及び東京工業大学火山流体研究センターが共同で実施。2000 年 9 月以降は COSPEC 型(Resonance 製) 2005 年 5 月以降は COMPUSS による観測結果をもとに作成。また、2005 年 11 月までは海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、東京消防庁及び警視庁の協力を得て観測したデータを含む。

なお、2000 年から 2004 年にかけては一部データがスケールアウトしている。

注 2) は、第 10 図(観測点配置図)の GNSS 基線 に対応する。グラフの空白部分は欠測。

2010 年 10 月分以降のデータについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。

注 3) 、及び は、地震タイプ別の計測を開始した 2001 年から掲載。

計数基準：2012 年 7 月 31 日まで：雄山北東観測点 S-P 時間 3.0 秒以内、上下動 12 $\mu\text{m/s}$ 以上

2012 年 8 月 ~ 11 月：雄山南西観測点 S-P 時間 3.0 秒以内、上下動 5.5 $\mu\text{m/s}$ 以上

2012 年 12 月 ~：雄山南西観測点 S-P 時間 3.0 秒以内、上下動 6.0 $\mu\text{m/s}$ 以上

・山頂火口からの噴煙の高さは、火口縁上概ね 100 ~ 500m で推移した。

・地震回数はやや少ない状態で経過した。



第 2 図 三宅島 山頂部の噴煙の状況 (2015 年 1 月 16 日、小手倉遠望カメラによる)
Fig.2 Visible image of Miyakejima on January 16, 2015.



第 3 図 三宅島 第 4 図の撮影場所と撮影方向
Fig.3 Position and direction of taking the photograph of fig.4.



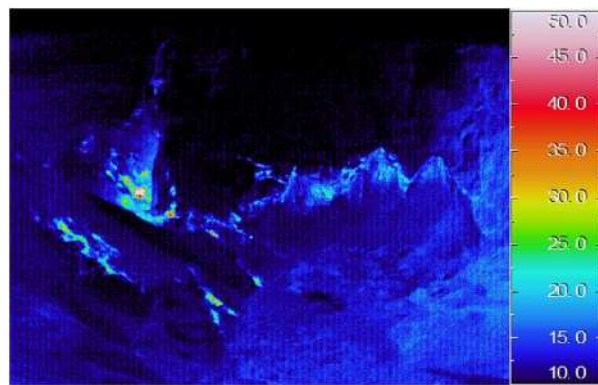
2015年1月13日11時16分撮影



2014年12月10日10時57分撮影



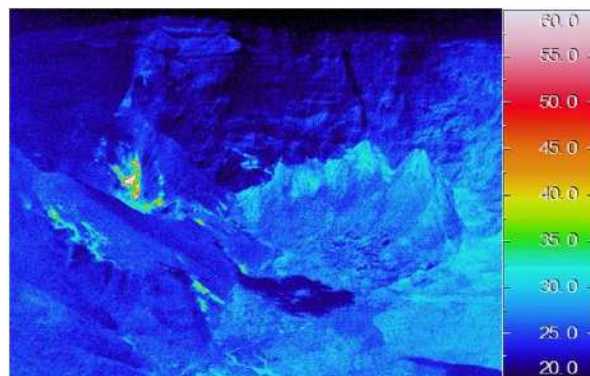
2014年11月19日10時50分撮影



2014年11月19日10時52分撮影



2014年9月17日10時32分撮影



2014年9月17日10時30分撮影

第4図 三宅島 山頂火口南側内壁に位置する主火孔の状況と地表面温度分布

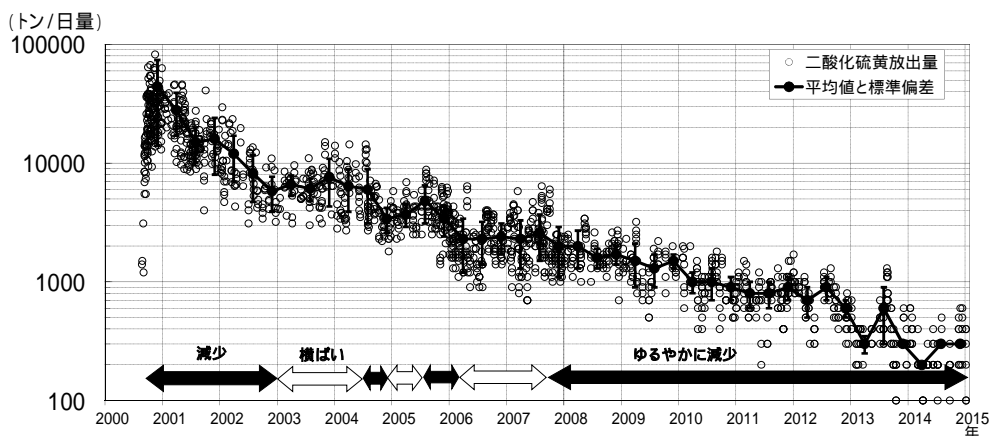
Fig.4 Condition and temperature distribution of main crater in summit caldera.

- ・火口内の地形および高温領域の分布に特段の変化は認められなかった。

第 1 表 三宅島 4 ヶ月毎の二酸化硫黄放出量の平均値とその標準偏差

Table1 List of emission rate of SO2 and the standard deviation (t/day).

観測期間	観測日数	平均±標準偏差
2000/10-2001/1	53	44000 ± 30000
2001/2-2001/5	22	28000 ± 11000
2001/6-2001/9	21	15000 ± 5000
2001/10-2002/1	16	16000 ± 8000
2002/2-2002/5	12	12000 ± 5000
2002/6-2002/9	8	8200 ± 3500
2002/10-2003/1	9	5800 ± 1900
2003/2-2003/5	7	6600 ± 1300
2003/6-2003/9	10	6100 ± 1300
2003/10-2004/1	9	7600 ± 3300
2004/2-2004/5	10	6400 ± 2500
2004/6-2004/9	11	6000 ± 2900
2004/10-2005/1	8	3400 ± 800
2005/2-2005/5	8	3700 ± 800
2005/6-2005/9	8	4800 ± 1700
2005/10-2006/1	16	3400 ± 1000
2006/2-2006/5	11	2300 ± 1100
2006/6-2006/9	11	2300 ± 900
2006/10-2007/1	8	2400 ± 700
2007/2-2007/5	10	2300 ± 1000
2007/6-2007/9	13	2600 ± 1100
2007/10-2008/1	12	2000 ± 900
2008/2-2008/5	6	2000 ± 700
2008/6-2008/9	5	1600 ± 300
2008/10-2009/1	7	1700 ± 300
2009/2-2009/5	6	1500 ± 600
2009/6-2009/9	4	1300 ± 400
2009/10-2010/1	4	1500 ± 200
2010/2-2010/5	5	1000 ± 200
2010/6-2010/9	5	1000 ± 300
2010/10-2011/1	6	900 ± 200
2011/2-2011/5	5	800 ± 200
2011/6-2011/9	4	800 ± 200
2011/10-2012/1	8	900 ± 200
2012/2-2012/5	6	700 ± 200
2012/6-2012/9	5	900 ± 200
2012/10-2013/1	6	600 ± 100
2013/2-2013/5	5	300 ± 50
2013/6-2013/9	5	600 ± 300
2013/10-2014/1	7	300 ± 100
2014/2-2014/5	3	200 ± 50
2014/6-2014/9	4	300 ± 50
2014/10-2015/1	4	300 ± 50

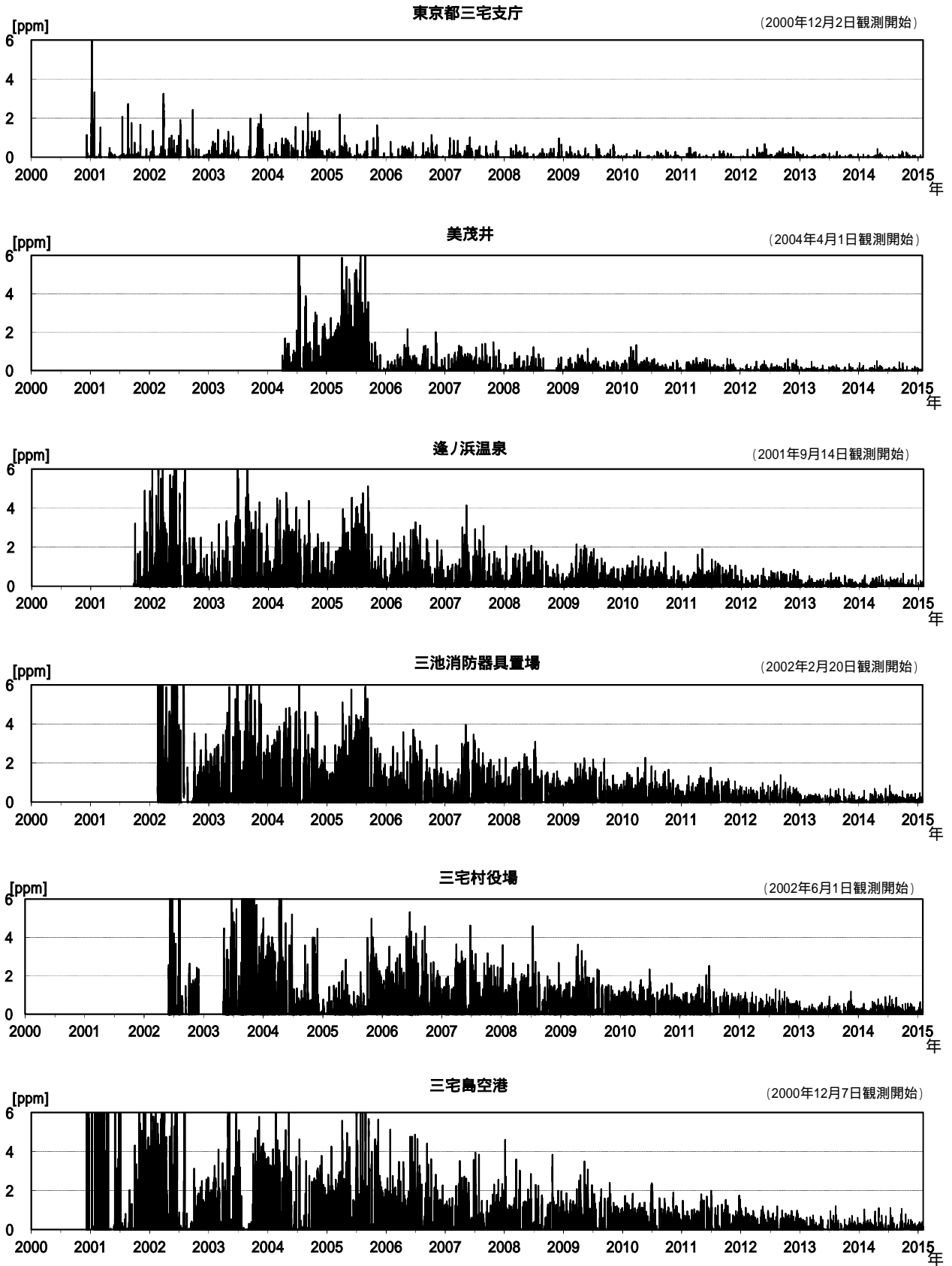


第 5 図 三宅島 二酸化硫黄放出量と平均値の推移 (第 1 図 - を対数スケールで表示)

Fig.5 Emission rate of SO2 and a change of the mean value.

注) 平均値と標準偏差は、第 1 表に示す 4 ヶ月毎の平均と標準偏差を表示。値は平均をとる期間の中央にプロットしている。また標準偏差はエラーバーで表示している。

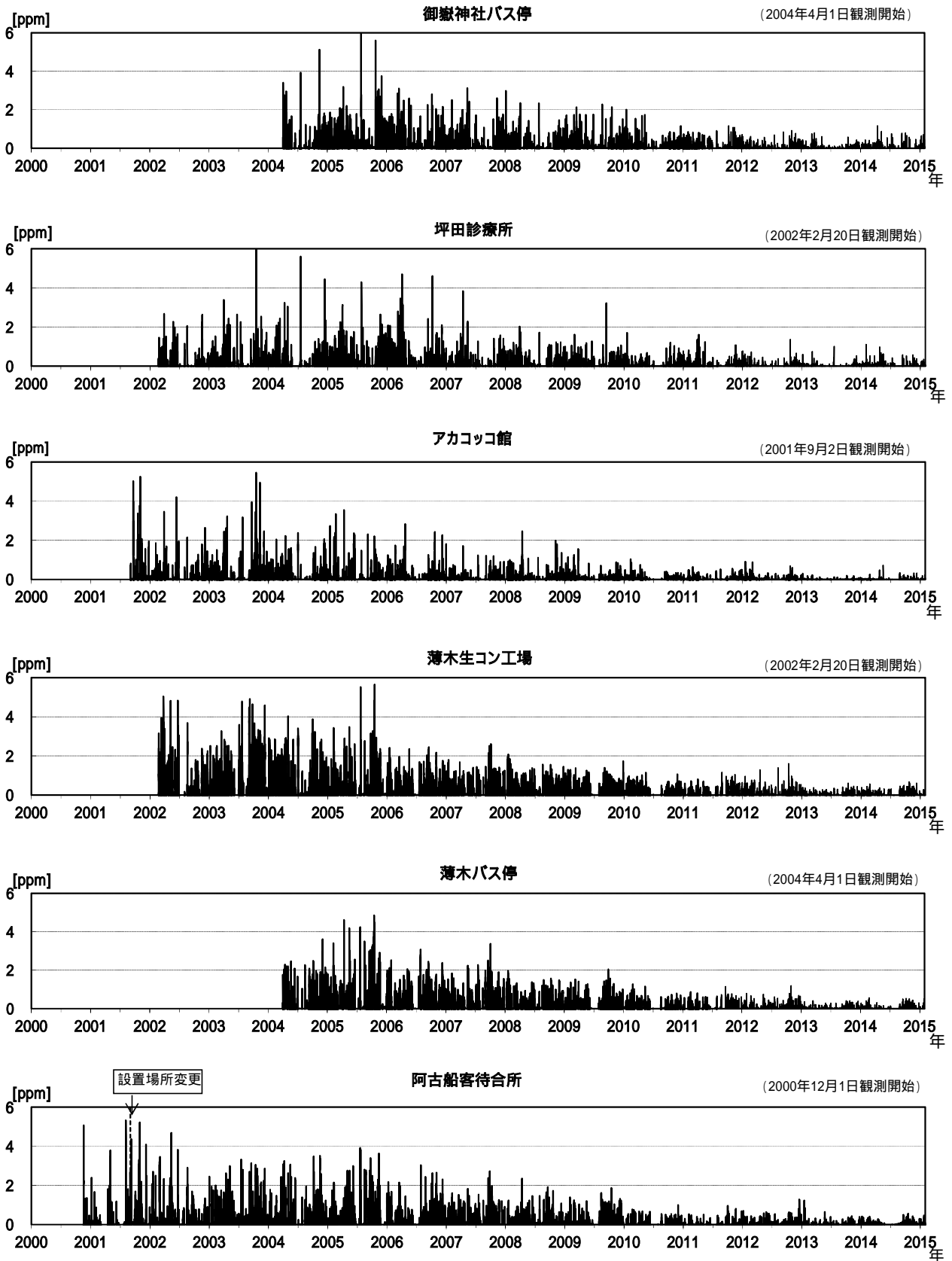
- 平均値の推移をみると、二酸化硫黄放出量は「減少」「横ばい」の期間を繰り返しながら、全体としては減少傾向が認められる。
- 山頂火口からの二酸化硫黄放出量は、2013 年以降ほぼ 1 日当たり 1 千トンを下回っている。今期間 2 回実施した現地調査では、300 から 400 トンと、やや少量のガス放出が続いている。



第 6 図 - 三宅島 火山ガス観測結果 (1 時間値) (2000 年 ~ 2015 年 1 月)

グラフは三宅村から提供された火山ガスデータをもとに気象庁が作成。

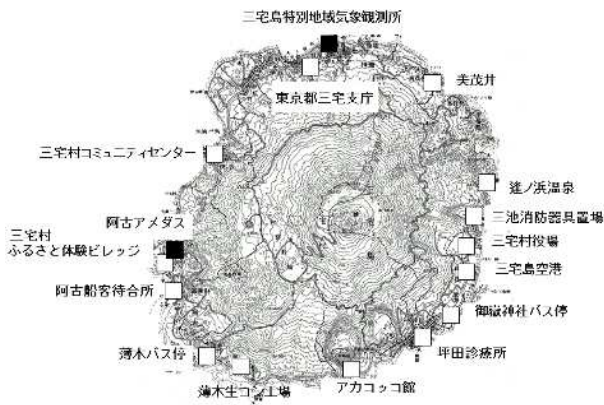
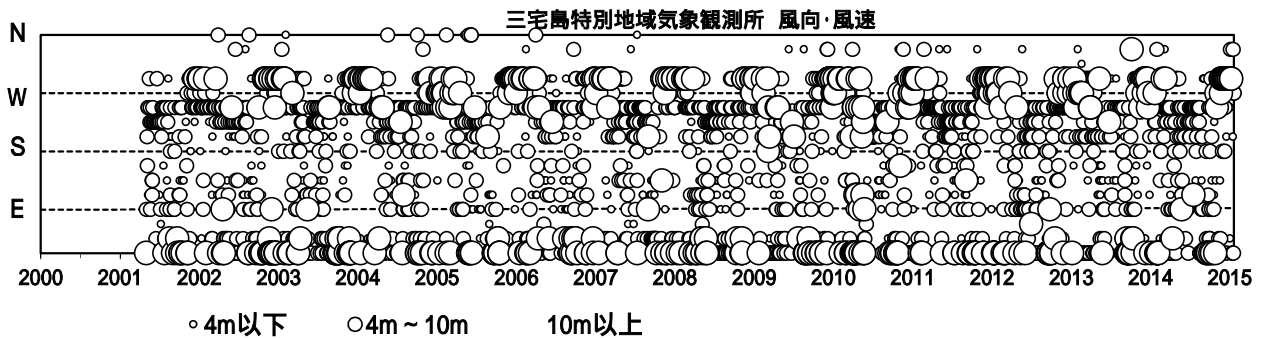
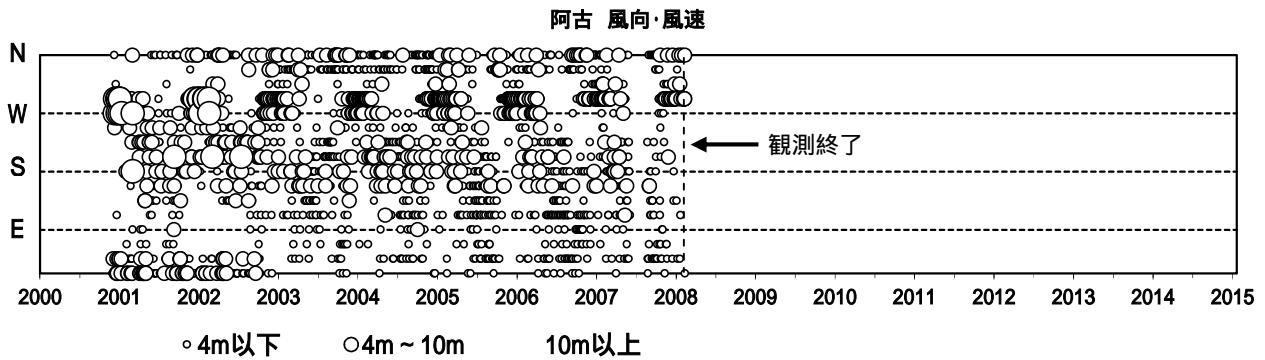
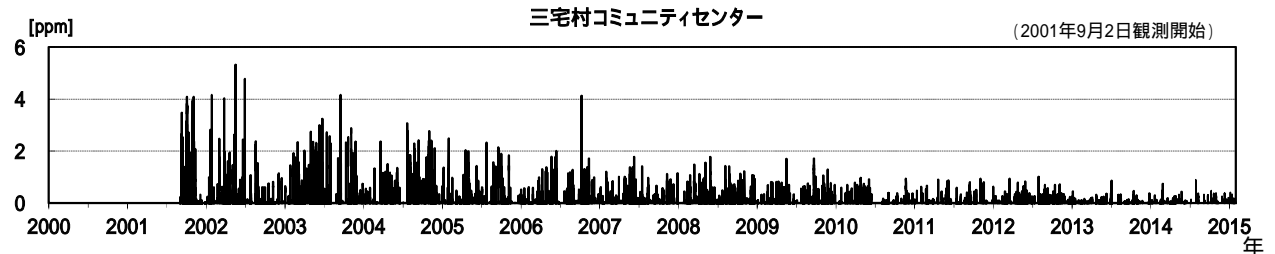
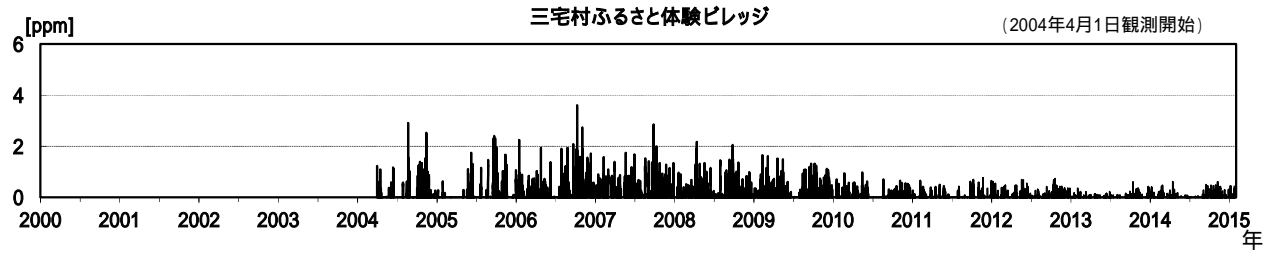
Fig.6-1 Results of volcanic gas observations from January 2000 to January 2015.



第 6 図 - 三宅島 火山ガス観測結果 (1 時間値)(2000 年 ~ 2015 年 1 月)

グラフは三宅村から提供された火山ガスデータをもとに気象庁が作成。

Fig.6-2 Results of volcanic gas observations from January 2000 to January 2015.



は三宅村火山ガス観測点、
は気象観測点を示す。
2008年2月 阿古の観測終了

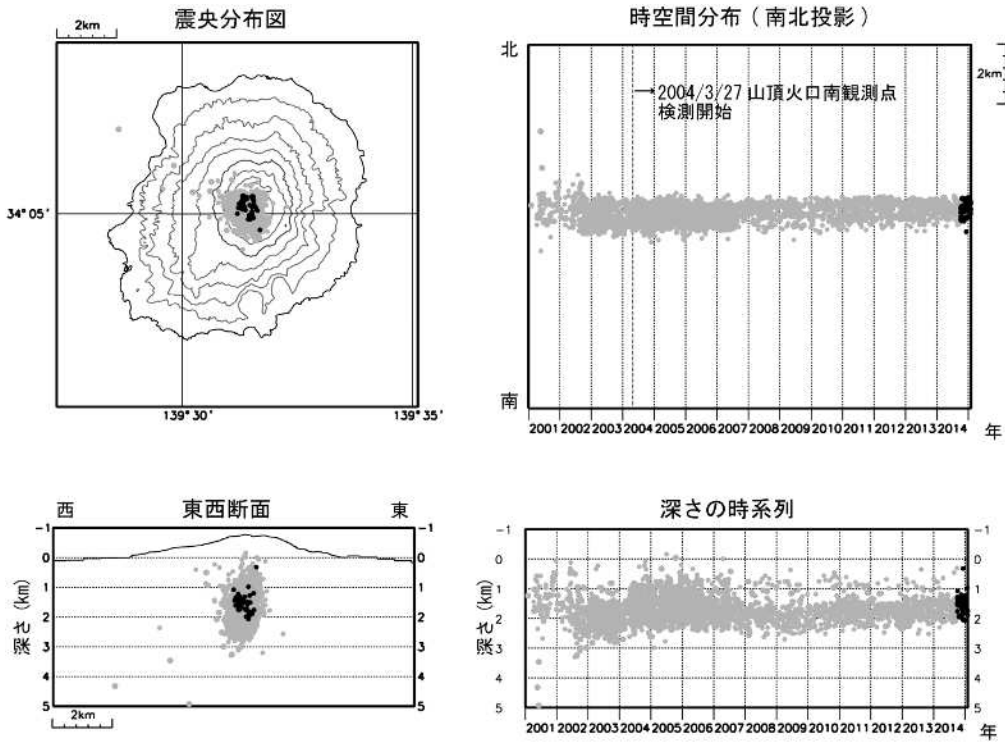
第6図 - 三宅島 火山ガス観測結果(1時間値)と三宅島特別地域気象観測所の風向風速(気象庁)(2000年~2015年1月)および三宅村火山ガス観測点配置図

Fig.6-3 Results of volcanic gas observations from January 2000 to January 2014.

グラフは三宅村から提供された火山ガスデータをもとに気象庁が作成

この地図の作成には、国土地理院発行の『2万5千分の1地形図(三宅島)』を使用した。

・風下にあたる地区では、まれにやや高濃度の火山ガスが観測されている。



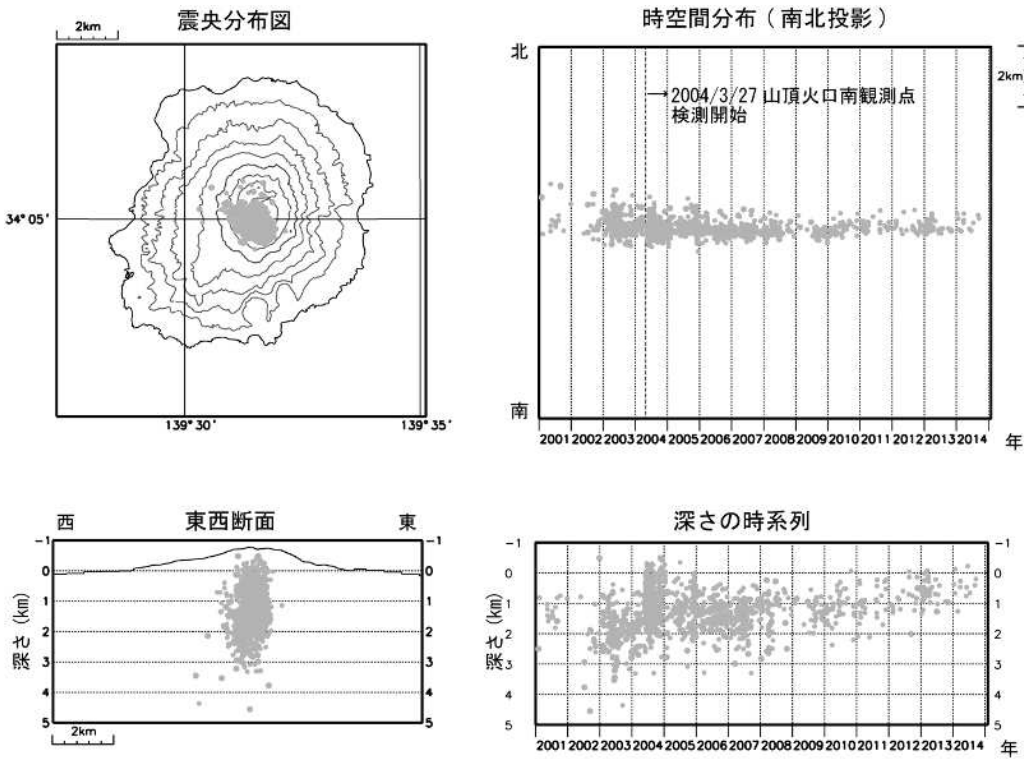
第 7 図 - 三宅島 高周波地震の震源分布 (2001 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日)

Fig.7-1 Hypocenter distribution of high frequency earthquakes from January 2001 to January 2015.

: 2001 年 1 月 1 日 ~ 2014 年 9 月 30 日 : 2014 年 10 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

- ・今期間、高周波地震は少ない状態で経過した。



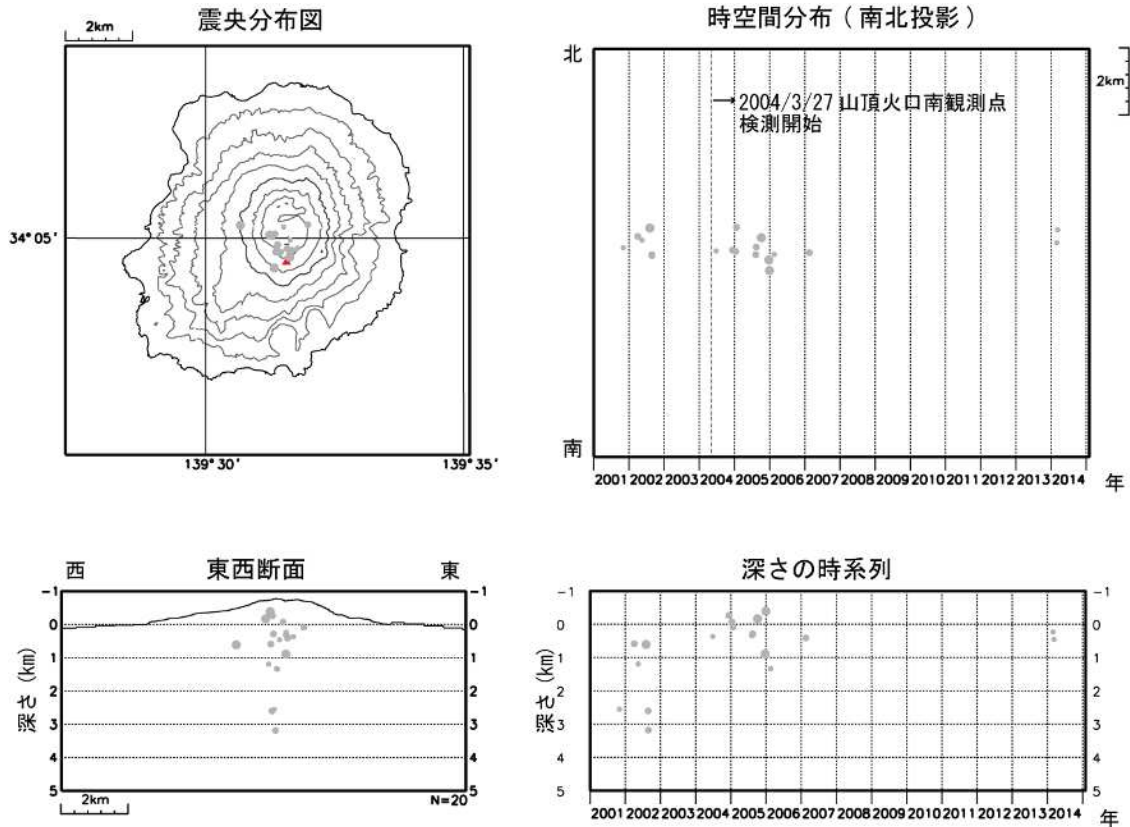
第 7 図 - 三宅島 やや低周波地震の震源分布 (2001 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日)

Fig.7-2 Hypocenter distribution of BH-type earthquakes from January 2001 to January 2014.

: 2001 年 1 月 1 日 ~ 2014 年 9 月 30 日 : 2014 年 10 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

- ・今期間、やや低周波地震は少ない状態で経過し、震源が決定された地震はない。



第 7 図 - 三宅島 低周波地震の震源分布 (2001 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日)

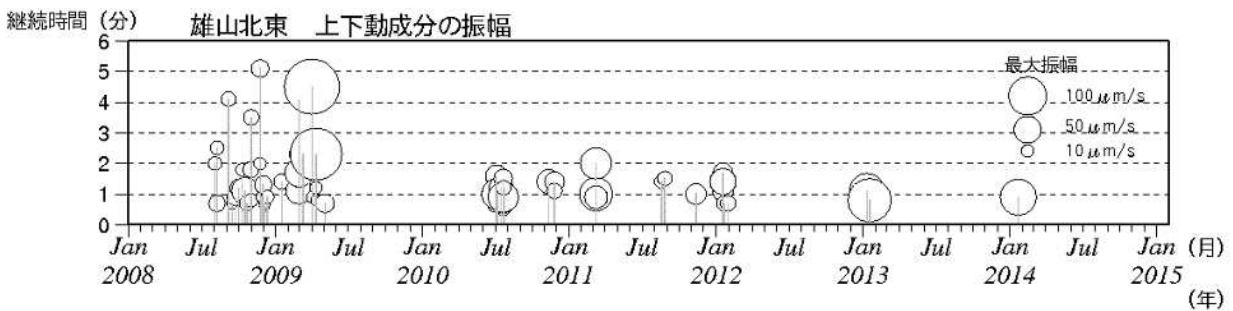
Fig.7-3 Hypocenter distribution of BL-type earthquakes from January 2001 to January 2015.

: 2001 年 1 月 1 日 ~ 2014 年 9 月 30 日 : 2014 年 10 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

・今期間、低周波地震の発生は少なく、震源が決定された地震はない。

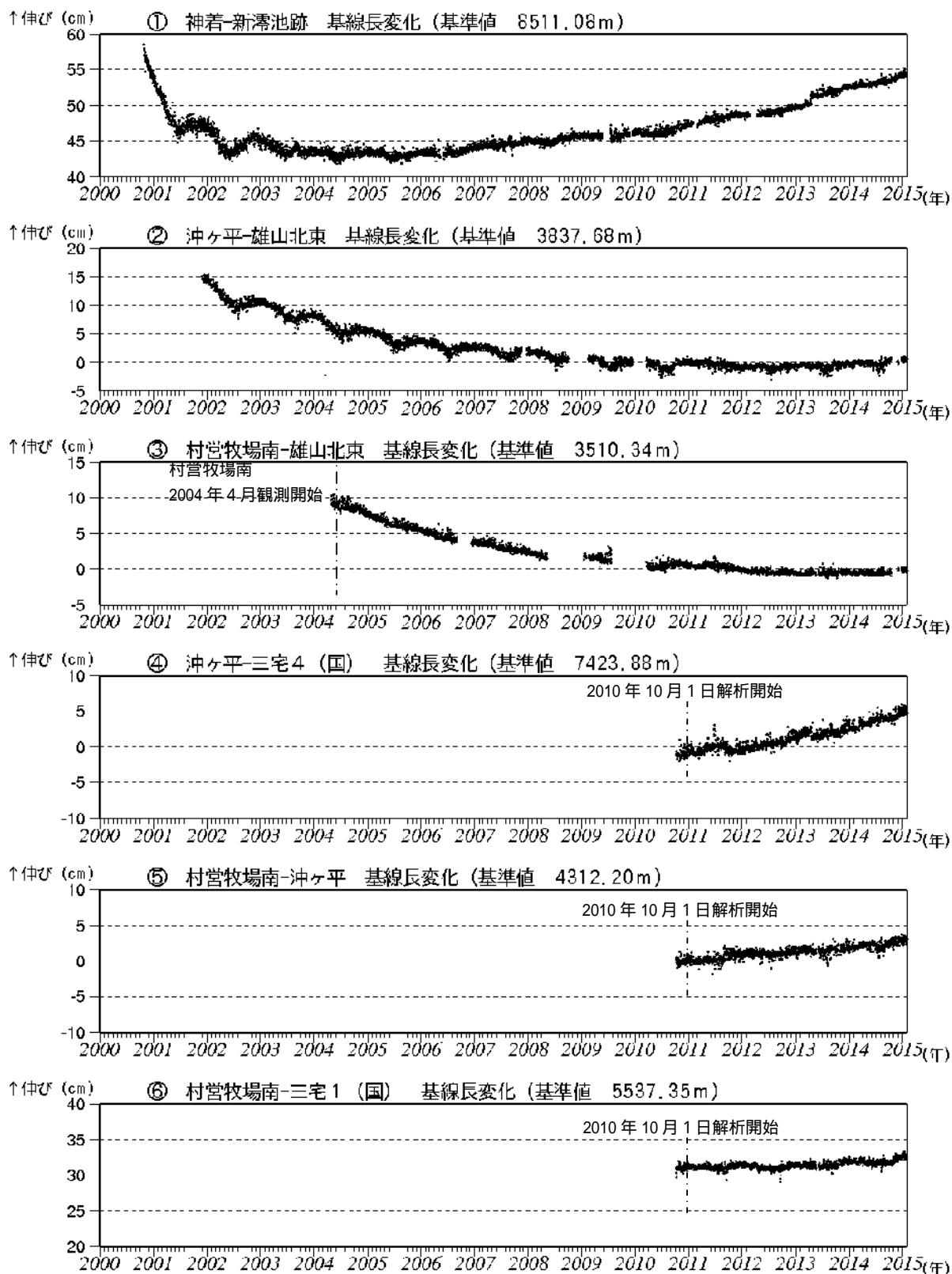
注) 第 7 図 - ~ では、震源計算には半無限速度構造 ($V_p=2.5\text{km/s}$, $V_p/V_s=1.73$) を使用。



第 8 図 三宅島 単発的な火山性微動の活動経過図 (2008 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日)

Fig.8 Activity of isolated volcanic tremors of Miyakejima from January 2008 to January 2015.

・今期間、火山性微動は観測されなかった。



第 9 図 - 三宅島 GNSS 連続観測による基線長変化 (2000 年 10 月 ~ 2015 年 1 月 31 日)

Fig.9-1 Results of GNSS observations from October 2000 to January 2015.

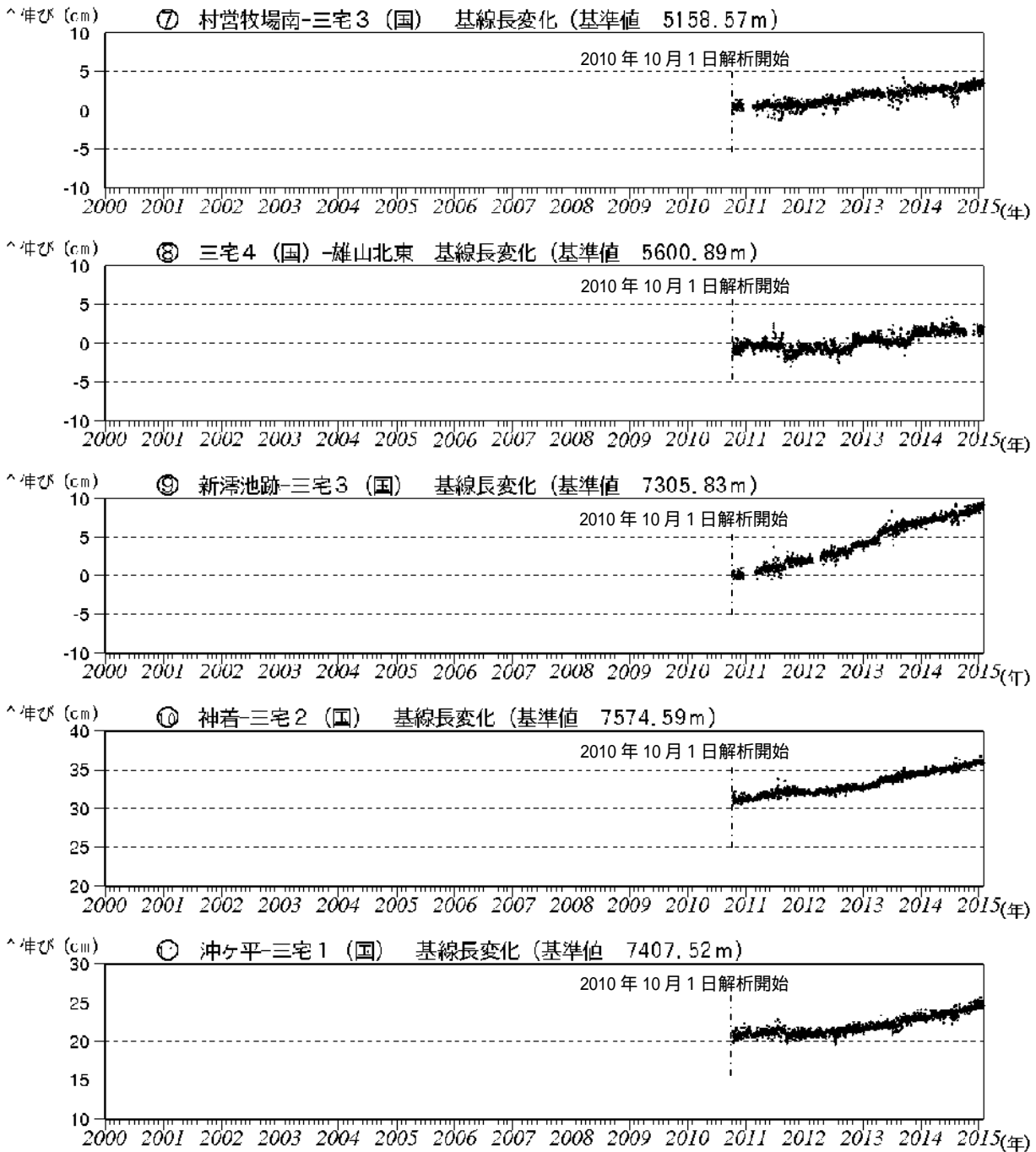
(国): 国土地理院

基線 ~ は第10図 (観測点配置図) の ~ にそれぞれ対応している。

2010年10月分以降のデータについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。

注) 村営牧場南観測点は2004年4月観測開始

グラフの空白部分は機器障害による欠測



第9図 - 三宅島 GNSS連続観測による基線長変化 (2000年10月～2015年1月31日)

Fig.9-2 Results of GNSS observations from October 2000 to January 2015.

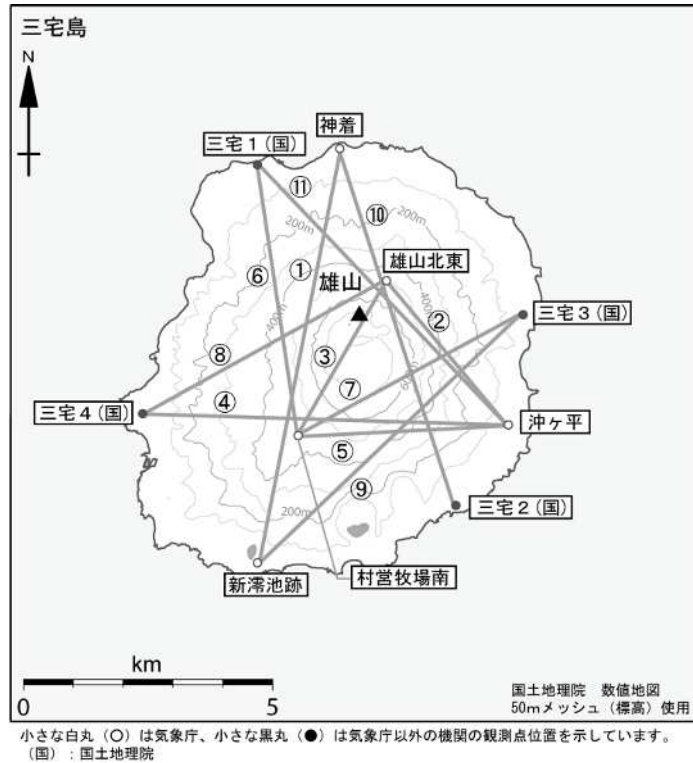
(国): 国土地理院

基線 ~ は第10図(観測点配置図)の ~ にそれぞれ対応している。

2010年10月分以降のデータについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。

注) グラフの空白部分は機器障害による欠測

- 山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している(基線)。
- 島の南北を挟む長距離の基線 等で2006年頃から伸びの傾向が見られるなど、深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

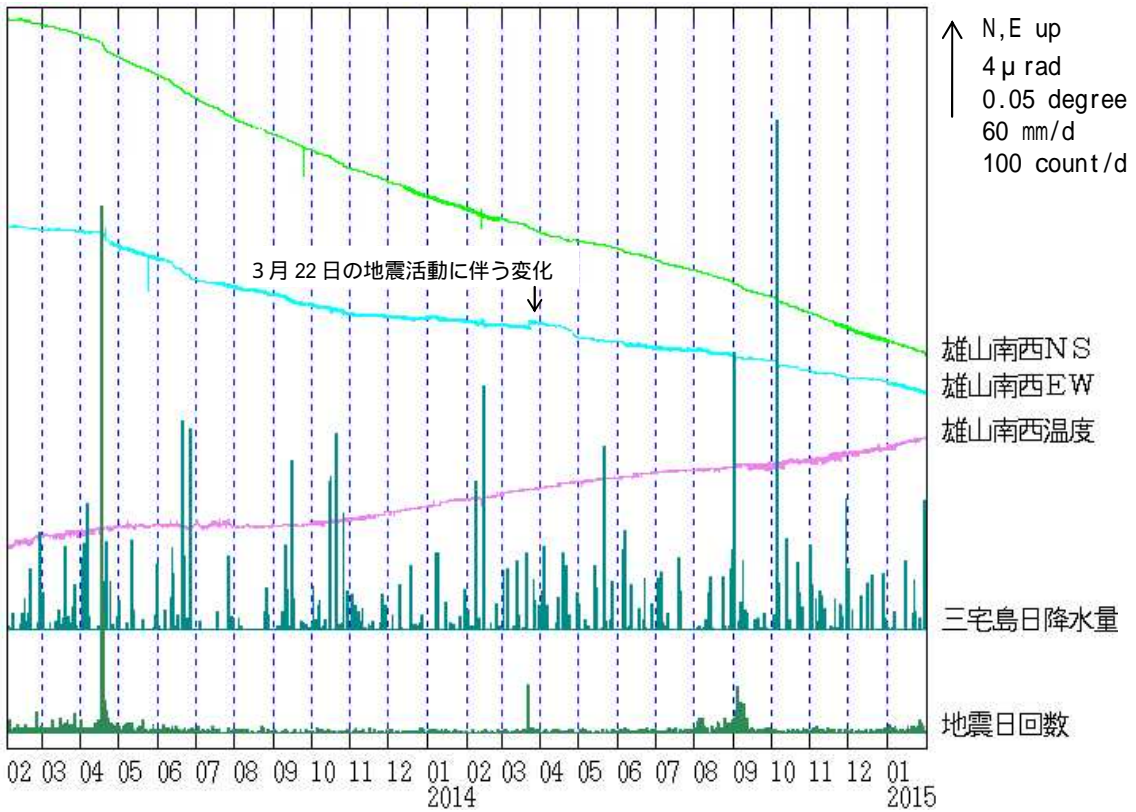


第 10 図 三宅島 GNSS 基線図

Fig.10 GNSS baselines in Miyakejima.

～ は第 9 図の GNSS 基線 ～ に対応する。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』および『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

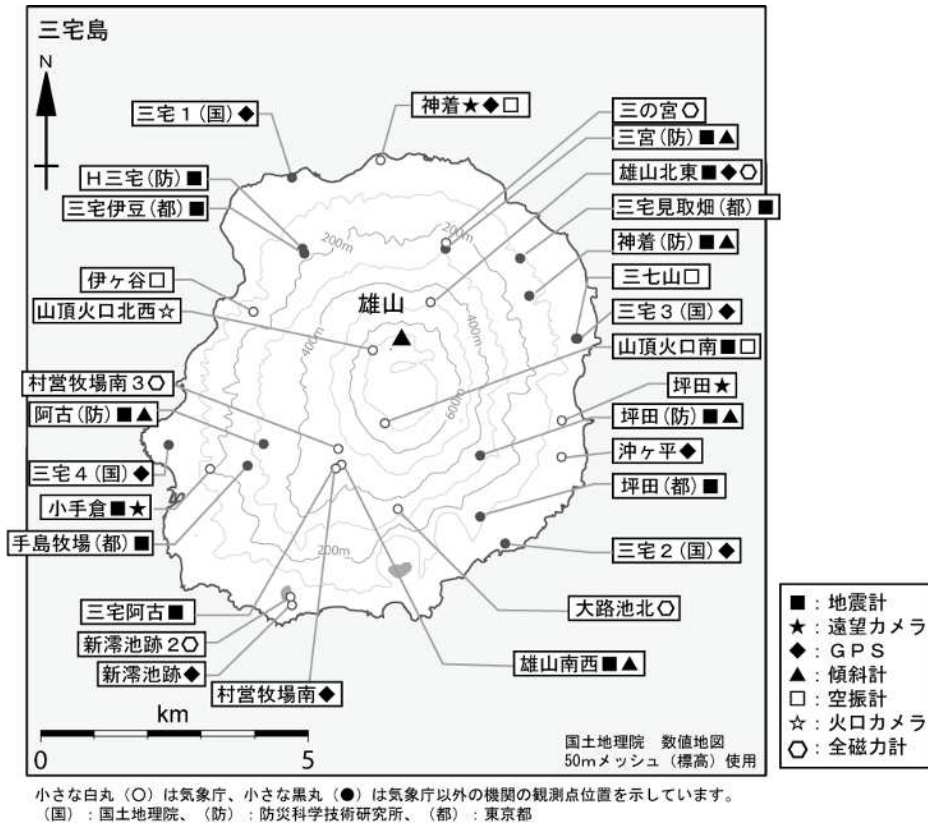


第 11 図 三宅島 雄山南西観測点における傾斜変動

Fig.11 Tilt Observation at OyamaSW station in Miyakejima.

(2012年10月1日～2015年1月31日、時間値、潮汐補正済み)

・火山活動によるとみられる傾斜変動は認められない。



第 12 図 三宅島 観測点配置図

Fig.12 Location map of observation sites in Miyakejima.

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』および『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

第 2 表 三宅島 2001 年以降の噴火リスト^{注)}

Table2 List of eruptions of Miyakejima since 2001.

	日時	噴煙			震動波形	空振	備考
		高さ	色	流向			
2001	1	01/01/11 10:38	800	灰白色	東	不明	
	2	01/03/19 06:48	800	灰白色	南西	低周波地震	07:40頃まで継続。前日午後には低周波地震群発状態
	3	01/05/27 05:05	×	(雲) 灰白色	東	低周波地震	あり 都道沿いで降灰確認(どちらのイベントによるものかは不明)
	4	01/05/27 06:04	1,200	灰白色	東	低周波地震	あり
	5	01/06/03 06:34	700	灰白色	南東	低周波地震	あり 都道沿いで降灰確認
	6	01/06/10 19:25	500	灰白色	東	低周波地震	あり
	7	01/06/13 02:29	×	(雲) (東)	(東)	低周波地震	あり 空港カメラに火山灰が少量付着。
	8	01/06/24 20:12	×	(雲・夜) (西)	(西)	低周波地震	あり 翌朝の現地調査で、自動車に灰混じりの雨が降ったあとを確認
		01/06/24 22:34	×	(雲・夜) (西)	(西)	低周波地震	
	9	01/07/10 06:38	500	灰白色	南西	低周波地震	
	10	01/07/10 08:23	500	灰白色	南西	低周波地震	
	11	01/07/18 17:42	×	(雲) 灰白色	北東	低周波地震	あり
	12	01/09/26 11:32	1000	灰白色	東	低周波地震	
	13	01/09/27 21:28	1000	灰白色	北西	低周波地震	あり 22:15頃まで継続。都道沿いで降灰確認(どちらのイベントによるものかは不明)
	14	01/09/27 23:04	800	灰白色	北西	低周波地震	あり
	15	01/09/28 05:28	800	灰色	北東	微動	あり 都道沿いで降灰確認
	16	01/10/11 03:34	×	(雲) 東	東	微動	あり 都道沿いで降灰確認
	17	01/10/11 09:02	100未満	灰白色	東	なし	火口縁に降灰するのを確認
	18	01/10/16 07:22	1500	灰色	北西	微動	あり 都道沿いで降灰確認
19	01/11/01 12:32	800	灰白色	北東	低周波地震	あり 都道沿いで降灰確認	
2002	1	02/01/23 12:34	200	灰白色	東	低周波地震	あり 都道沿いで降灰確認
	2	02/02/21 17:37	300	灰白色	東北東	低周波地震	あり 都道沿い(サター岬付近)で降灰確認
	3	02/03/02 05:53	×	(雲) 灰白色	北西	低周波地震	あり
	4	02/03/02 06:12	×	(雲) 灰白色	北西	低周波地震	あり
	5	02/03/31 06:03	800	灰色	北東	微動	あり 都道沿いで降灰確認
	6	02/04/02 10:02	300	灰白色	東	低周波地震	あり 都道沿い(空港付近)で降灰確認
	7	02/04/03 10:41	200	灰白色	北東	低周波地震	あり
	8	02/04/16 06:00	×	(雲) 北東	北東	低周波地震	あり 都道沿いで降灰確認
	9	02/06/15 16:19	500	灰白色	北東	低周波地震	あり 都道沿いで降灰確認
	10	02/08/01 17:42	×	(雲) 東	東	微動	あり 都道沿い(三池港)で降灰確認
	11	02/09/16 05:10	×	(雲) 南西	不明	不明	都道沿いで降灰確認
	12	02/10/08 14:51	200	灰白色	東	低周波地震	空港カメラに火山灰が少量付着
	13	02/11/24 13:16	×	(雲) 南~南西	南~南西	低周波地震	都道沿いで降灰確認
2004	1	04/11/30 07:46	300	灰色	東	低周波地震	あり 空港カメラに火山灰が少量付着
	2	04/12/02 16:45	600	灰色	南西	低周波地震	あり 都道沿いで降灰確認
	3	04/12/7 15~ 04/12/8 06	×	(夜間)	(東)	低周波地震	あり 8日朝に火口東3kmの地点で降灰確認 7日17時~8日06時に発生した低周波地震に伴うと思われる
	4	04/12/09 06:16	×	(雲) (西南西)	(西南西)	低周波地震	あり 小手倉カメラに火山灰が付着
2005	1	05/04/12 04:45	×	(雲) (南西)	(南西)	低周波地震	あり 都道沿いで降灰確認
	2	05/05/18 02:41	200	白色	(北)	低周波地震	あり 都道沿いで降灰確認
2006	1	06/2/17 22:38~ 06/2/17 23:34	300	白色	(東~ 東南東)	低周波地震	あり 都道沿いで降灰確認
	2	06/08/23 04:25	500 700	灰色 白色	南東	低周波地震	あり 空港カメラで灰色の噴煙を確認 島南東部の都道沿いで降灰を確認
2008	1	08/01/07 06:54	300	灰色 白色	南東	やや低周波地震	あり 空港カメラで灰色の噴煙を確認 島の東から南東部の都道沿いで降灰を確認
	2	08/05/08 08:22	200	灰色	南東	低周波地震	あり 小手倉カメラ、空港カメラで灰色の噴煙を確認
2009	1	09/04/01 16:17	600	灰色	東	低周波地震	あり 小手倉カメラ、神着カメラ、坪田カメラ、火口カメラで灰色の噴煙を確認 島東部の都道沿いで降灰を確認
	2	09/04/18 01:06	×	(雲) (南東~ 南)	(南東~ 南)	やや低周波地震	あり 島の南東から南部の都道沿いで降灰を確認
	3	09/05/25 03:36	×	(雲) (南南西)	(南南西)	やや低周波地震	あり 山頂火口の南南西側で降灰を確認
	4	09/11/15 04:15	400	×	東	やや低周波地震	あり 三宅島空港で降灰を確認
2010	1	10/04/10 21:24	×	(雲・夜) (北)	(北)	やや低周波地震	あり 島の北側で降灰を確認
	2	10/04/11 08:40	500	黒灰色	東	やや低周波地震	あり 坪田カメラで黒灰色の噴煙を確認、島の東部で降灰を確認
	3	10/07/04 10:19	×	(雲) (東)	(東)	微動	あり 島の東側で少量の降灰を確認
	4	10/07/04 14:34	×	(雲) (東北東)	(東北東)	やや低周波地震	あり 島の東側で少量の降灰を確認、降灰調査中(16時27分頃)に微量の降灰を確認
	5	10/07/21 09:28	300	灰色	東	なし	あり 島の東部で少量の降灰を確認
	6	10/07/21 10:39	300	灰色	東	微動	
2013	1	13/01/22 16:38	200	白色	南東	低周波地震	あり 坪田カメラに火山灰がごく少量付着、島の東部で降灰を確認

・「×」は雲や夜間のため噴煙の高さ(色)を観測できなかったことを示す。なお、「×」の場合は「()」に観測の障害となった現象を付加している。

・流向に「()」を付加したものは、噴煙は不明だが降灰の領域から推定される噴煙の流向を示している。

注) 2009年4月以前は遠望カメラで有色噴煙を観測したもの、又は都道付近で降灰を確認したもの。

2009年5月以降は火口周辺で降灰が確認されたものも含む。